



全日畜だより

[こちら編集部] (03)-3583-8034

東京都港区麻布台2-2-1麻布台ビル

発効日 2018年5月30日

発行NO 2018 - 10号

ご案内

第10回定時社員総会 総会記念「セミナー」

組織の創設から10周年の節目を迎えた全日畜は、6月14日(木)、第10回の定時社員総会と、総会終了後に同会場で総会記念「全日畜セミナー」を開催します。

総会では、「人口減少」や「国際的な貿易交渉」等の多くの課題を抱える下での畜産経営者への支援活動等についてご審議いただきます。

全日畜セミナーでは、今日の畜産業にもっとも精通しておられる南波利昭氏を講師にお招きしてご講演をいただきます。かじ取りの難しい現下の畜産経営について何かヒントを見つけることができればと考えております。どうぞご参加ください。

第1回理事会等を開催

平成30年度の全日畜活動を本格始動するために、5月17日(木)第1回理事会を開催。併せて、5月8日(火)には第1回運営委員会を開催しました。

会議では、10年の節目を迎え、さらに生産者支援活動を推進する方策等について検討を始めました。

今年度は、新たに全日畜が実施することになったJRA事業「スマート畜産調査普及事業」等を核に、地域組織と連携した地域活動を活発に行っていきます。

(写真下 全日畜の理事会のみなさん)



(全日畜からのご案内)

第10回「定時社員総会」の開催 総会記念「全日畜セミナー」の開催



[ご挨拶]

日頃より、全日畜の諸活動にご理解ご協力を賜り心より感謝申し上げます。さて、平成21年度に畜種横断の畜産経営者の団体として誕生した「全日畜」も、今年度は10周年の節目の年を迎えました。

畜産経営者を取巻く環境は、国際的な農畜産物の自由貿易交渉が急速に進展するなど大変厳しい状況にあります。私たちが畜産経営者は、今後も消費者の皆様へ安心で、美味しい畜産物の安定供給に努めて参ります。

つきましては、今年度も「第10回定時社員総会」および「総会記念全日畜セミナー」を開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

「第10回定時社員総会」及び「全日畜セミナー」の概要

1 開催日	平成30年6月14日(木)
	○ 定時社員総会 13:00 ~ 14:45 (13階 飛鳥の間)
	○ 全日畜セミナー 15:00 ~ 17:00 (13階 飛鳥の間)
2 会場	ホテル アジュール竹芝 〒105-0022 東京都港区海岸 1-11-2 TEL 03-3437-2011 FAX 03-3437-2170

[セミナー講師のご紹介]



講師 南波利昭氏

演題 努力すれば報われる「畜産」
(キーワードは「技術」)

講師 公益社団法人 畜産技術協会
会長 南波利昭氏

プロフィール S46年4月 農林水産省入省、H11年 畜産局畜産生産課長、その後、家畜改良センター理事、畜産環境整備機構副理事長、中央畜産会副会長等、多くの畜産団体で要職を歴任、現在に至る

(写真下 全日畜の運営委員会のみなさん)



(文中での団体の略称標記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会 (全日畜)
- ・協同組合 日本飼料工業会 (工業会)

- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 (全日基)
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会 (〇〇県基金協会)

平成30年度の諸活動について、実務者会議等をスタート

○ 第1回事務局長会議を開催

今年度の全日畜活動では、地域組織と連携した地域での活動強化を掲げたことを踏まえて、5月21日(月)地域全日畜と県全日畜の事務局長を招集して第1回事務局長会議を開催。

会議では、今年度のALIC事業「養豚農業実態調査」で、養豚主産地4会場で実施するワークショップ型の実態調査の実施や、JRA事業「スマート畜産調査普及事業」で、2年間で4会場で実施する全日畜シンポジウムの開催等について、具体的な連携方法等について打合せを行いました。



(写真 出席された事務局長のみなさん)

○ JRA事業「スマート畜産調査普及事業」の技術検討委員会を開催

全日畜は、日本中央競馬会(JRA)が公募した平成30年度のJRA畜産振興事業に応募し、「スマート畜産調査普及事業」を実施することになりました。この事業は、人口減少課題を抱える下で畜産生産現場の労働力確保対策を掲げて、最新の畜産技術を活用したスマート畜産の普及を図るものです。

5月28日(月)、外部の専門委員による「技術検討委員会」を開催。この委員会は事業の円滑な実施について検討支援をいただくもので、試験研究者2名、学識経験者4名、畜産経営者2名、施設機器メーカー関係者2名の計10名の外部委員で構成。

事務局からの事業説明の後、具体的な実施方法等について、各専門分野の委員から貴重なご意見をいただきました。

会議では、7月24日～25日に鹿児島県で開催を予定している、第1回全日畜シンポジウム「スマート畜産への期待」や、畜産経営者や施設機器メーカーを対象としたアンケート調査について活発に議論しました。



(写真 熱心な審議が続く技術検討委員会)

地域活動も本格的にスタート (鹿児島からキックオフ)

○ 鹿児島県全日畜が第9回定時会員総会と講演会を開催

全日畜との連携活動である要請活動などの他、地域の特性を踏まえた独自事業が活発に展開。研修会や意見交換会などの「経営資質の向上対策事業」や、畜産クラスター事業を中心とした「畜産振興支援事業」等は、大きな成果を発現。



(写真上 総会で開会の挨拶をする鶴園会長)

講演会は、ALICの「畜産の情報」で全国に紹介された大分大学の 大呂興平 教授の講演。巨大な畜産経営体の「みらいグローバルファーム」と、「矢岳牧場」の調査から今後の展望等を考察。講師は、「いずれにせよ、産地としての仕組みづくりが不可欠」とまとめられた。

(写真左 「超大型肉用牛繁殖経営の出現」と題した講演会)

(文中での団体の略称標記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会 (全日畜)
- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 (全日基)
- ・協同組合 日本飼料工業会 (工業会)
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会 (〇〇県基金協会)